

【認知症対応型共同生活介護 用】

1. 第三者評価結果概要表

作成日：平成21年1月22日

【評価実施概要】

事業所番号	2873300939		
法人名	ウエルフェア株式会社		
事業所名	ウエルフェア伊丹 グループホーム		
所在地	(〒 664-0875) 兵庫県伊丹市野間北5丁目7-20		
	電話	072-778-5131	
評価機関名	特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所		
所在地	兵庫県神戸市長田区荻乃町2丁目2番14-703号		
訪問調査日	平成20年12月2日	評価確定日	平成21年1月22日

【情報提供票より】 [平成20年10月5日 事業所記入の同書面より要点を転記]

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年12月1日		
ユニット数	2ユニット (利用定員…計18人)		
職員数	16人	(常勤15人) (非常勤1人)	/ 常勤換算16人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	地上3階建て建物の 2階～3階部分		

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	73,500円	その他の経費(月額)	30,000円
敷金の有・無	有り (270,000円) ・ 無し		
保証金の有・無 (入居一時金含む)	有り (円) ・ 無し	(保証金有りの場合) 保証金償却の有・無	有り ・ 無し
食材料費	朝食	250円	昼食 500円
	夕食	450円	おやつ 100円
	または、1日あたり		1,300円

(4) 利用者の概要 (平成20年12月3日 現在)

利用者人数	計18名 … (男性5名) (女性13名)		
要介護1	11名	要介護2	2名
要介護3	4名	要介護4	1名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均79歳 … (最低59歳) (最高97歳)		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	北村クリニック	伊丹恒生病院	大林歯科
---------	---------	--------	------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

阪急「武庫之荘」駅の北2kmに建つ瀟洒な建物。周囲は所々に公園があり畑も残る、のどかな住宅地。1階には通所介護事業所も併設し、この地域に密着した介護サービスに尽力している。ボランティア、体験実習生の受入れのほか、ホームの行事には近隣住民を招待するなど、地域との絆を大切に、多くの取り組みを行なっている。日常のケアの記録様式にも様々な工夫をすることで、利用者それぞれの情報を的確に把握できるよう考えられている。「サービス改善シート」の活用からも、常々向上心を持ってのぞんでいることがよく分かる。暮らしの中で楽しみ事が継続できるよう(家族とも相談したうえで)、趣味の「絵画」の通信教育を受講している利用者もいるなど、支援の方法について細かな心遣いがなされている。◎添付の資料写真も参照

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4) 課題について継続して取り組んでおり、徐々に成果が出始めている。家族を交えた定期的なカンファレンスが、利用者の日常生活に反映され、職員の情報共有に対する意識も向上している。今後の新たな課題としては、例えば、重度化や終末期に向けた取組みが挙げられる。
	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:第三者4) フロア毎でリーダーがまとめ、管理者とともに検討し作成した。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:第三者4, 5, 6) 自治会との関わりにより、いろいろな取組みを進めているなど、地域との絆は深い。民生委員との関係、市や地域包括センターとの連携も、上手くしている。運営推進会議での討議内容については、家族への伝達や家族の理解の面で改善を望む部分もあるが、現況報告などの広報活動には熱心に取り組んでいる。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8) 種々の取組みにおいては家族からの意見聴取や家族の協力が不可欠であることから、事業所と家族の間で自由に(忌憚なく)意見交換できるよう、その環境の整備が課題となっている。介護計画の見直し時期には家族からの意見をしっかりと聴いており、相談・苦情については、管理者窓口だけではなく、職員全体で取り組む姿勢が感じられる。他の事業所の取組みなどを参考にして話し合う機会も設けている。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) 日頃の地道な取組みにより地域との絆が強まっていると感じられる。自治会活動にも積極的に参加している。地域との連携を大切に…との管理者の意識は、職員たちに上手く伝わっており、皆がこれを意識できている。
重点項目④	

◎利用者と共に過ごし支えあう関係

洗濯物の片付けなど、ADLに合わせた“生活リハビリ”を…



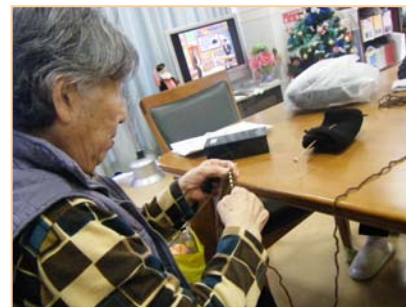
◎居心地よく過ごせる居室の配慮

居室は利用者各々の好みで…



◎役割、楽しみごと、気晴らしの支援

通信教育を受講している利用者も…



◎その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援

薬剤師の訪問時には、服薬指導も受けている



◎食事を楽しむことのできる支援

職員の“得意料理”のちらし寿司で昼食を



◎居心地のよい共用空間づくり

ホーム通信、行事案内などを玄関ホールに置き、ホームを訪れた人に見てもらっている。利用者の表情豊かな写真(壁に掲示)から、皆の会話も盛り上がる…





▲ 安全配慮の工夫  
椅子の脚をテニスボールで…



▲ プライバシー確保の徹底  
脱衣所の出入り口奥に暖簾を…



▲ 利用者との関係を育む工夫  
職員の特技(切り絵)も活かし…



▲ 居心地の良い共有空間づくり  
亀や熱帯魚をホームの皆で世話する…



▲ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援  
(協働による作品)



▲ 新人スタッフへ服薬管理の指導



▲建物外観（1階にデイサービスを併設）

▼リビングでの温かな雰囲気作り  
（手作りの大きなカレンダーや入居者の作品で…）



▲リビング兼食堂の横にある畳スペース



▲オープンキッチン（広く入居者の様子を見渡せる）



▲心身の状態が不安定な入居者への見守り(リビングの一角)

## 2. 第三者評価結果票

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域・信頼・人づくり」を土台に、「①利用者の皆さまが安心かつ、自立した生活を営むことが出来るように援助します。②地域を大切にし、社会に貢献できる事業所を目指します。③常に思いやりの心を持ち、利用者・家族・地域の人々・職員すべてが明るく幸せになる事業所を目指します。」としている。法人として地域密着の視点を大切にし、地域への還元を重視している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	地元で自治会組織が無いため、隣の地域の自治会に参加し、盆踊りへの参加や夏祭りなどを通じて交流を行っている。運営推進会議へも参加していただき、民生委員・家族代表・地域包括センターと意見交換などもし、これらの情報について職員間で共有できている。今年から、他のグループホームの管理者との交流も推進しており、イベントへの参加やボランティアの受入れなど、情報交換を行なっている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の、“昆陽南公園”の清掃活動や各種行事への参加を積極的に行っており、散歩を兼ねてゲートボールの見学などもしている。ホームの場所を秋祭の御輿コースにも組み入れてもらい、楽しんでいる。食料品の買出しなどにより、近くのスーパーとも馴染みの関係が築けている。	○	利用者の生活環境のさらなる向上へ向けて、地域の活動について、より多くの家族が参加できるよう検討していただきたい。地域への情報発信の活動(住民対象の学習会など)にも期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	事業者や管理者の意識が、利用者やその家族、従業員などに影響し、より良いサービス提供につながるという強い考えを持っている。近年、その成果が徐々に現れてきており、今後評価を生かして具体的な取組みを継続することの重要性を理解している。	○	機会のあるごとにテーマを見出し、全体会議の中で話し合っていく機会を継続させることで、さらに向上することが期待できる。

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の参加者(特に民生委員など)が、地域との接点を大事にしてくれている。討議の内容は家族の代表者に伝えられ理解も得ているが、他の家族に対しては伝達できていない部分もある。	○	これまで会議への出席の少なかった家族も、参加しやすくなるよう会議日時の工夫や、欠席者への伝達方法、討議内容をケアに反映させる方法についても、検討してもらいたい。地域関係者から、「地域の拠点」となるべく期待されてもおり、運営推進会議での検討を含め管理者、フロアリーダーや相談員・計画作成者を交えた意見交換を予定している。
6	9	○市町との連携  事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市とは防災対策マップの取組みや、イベントにおける備品の借用などによる連携がとれており、定期的に意見交換をしている。自治会とも季節行事や清掃などでの交流がなされ、サービスの質の向上に向けて話し合う機会も持たれている。	○	前回の課題として挙げられていた「福祉マップ」や「防災対策指針」は、市町との連携し継続して取り組む予定である。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	連絡・報告は、随時に行なっている。ホーム通信を毎月送付しており、家族の来訪時にも相談や報告などの対応をしている。ホーム通信は、力を入れ工夫されており、家族として(利用者の生活について)安心感の得られるものになっている。金銭管理については、3カ月毎に出納帳と領収書について確認もしている。	○	今後、ホーム通信の一部を外部向けの情報発信に活用できるよう企画してはどうか。そのような取り組みも必要に思う。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	他のグループホームも、この課題では対応に苦慮しており、家族への掲示案内や意見箱での実施には限界が見られるが、家族会での意見交換や第三者委員の設置などを含め、「どうすれば意見が引き出せるか」という課題を検討すべき時期に来ている。	○	2階の利用者が利用が長期化してきており、今後の対応を含めた意見交換が望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	原則として、退職者による入れ替わり以外は異動を行わないようにしており、利用者との馴染みの関係を大切にしている。	○	スタッフの確保については、今後も最重点課題であり、そのための「人材教育」に注力してもらいたい。

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	受講義務のある研修には参加するが、そうでない研修については時間的な制約もあることから、今後は内部研修に重点を置く旨、検討している。ケア方法・技術などは、スタッフから家族へ、家族から地域へと受け継がれてゆくことを期待しており、そのためにも、OJTの手法を活用してスタッフを育てていく予定である。	○	職員各人にそれぞれの責任を自覚することが課題である。各種委員会を立ち上げ、組織的なフォロー体制を作ってもらいたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターが中心となり、主任ケアマネとの交流や、実践研修において他の事業所職員の受け入れがされている。ボランティアグループの受入れにも積極的であり、伊丹市内における活動(地元紙への掲載ほか)も評価されている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	基本的には、家族と利用予定者に、一緒に見学に来てもらい、利用体験を行なっている。1階のデイサービスの利用にもつながってきている。家族との連携が重要であり、外泊体験につなげるまでも慎重な取り組みがされている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○利用者と共に過ごし支えあう関係  職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	部屋の清掃や洗濯物の片付けなど、利用者のADLに合わせ、生活リハビリを取り入れたサービスが提供されている。階によって多少ADLが違っているが、基本的な取り組みは共通している。3階では下膳の手伝いや、編み物など趣味の活動も行われ、利用者同士の馴染みの関係もできている。	○	利用者個別の対応が求められ、各人の生活暦の把握など、アセスメントの追加が必要となっている。


外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランの作成時には、事前にスタッフや本人・関係者などからヒアリングを行っている。それ以外の時期にも、必要に応じて、スタッフ間でのミーティングが行われており、記録のチェックを含め検討している。	○	ADLや必要事項の書き方、資料の整理に視点を置いた取り組みも検討してほしい。
<b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の意向を聴くことを最重視し、さらに家族とのカンファレンスを行うことで計画が作成されている。スタッフ間のカンファレンスも並行して行い、相互の意見に食い違いが生じないように調整を行っている。	○	チームとしての情報共有が最重点であり、今後も継続して取り組んでほしい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	スタッフ間での話し合いを大切に、随時に会議を行える体制をとっている。常時、フロー会議において見直しが行われている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	臨機応変に、かつ、柔軟な対応がされている。併設のデイサービス機能の活用により、地域との関係性を大切にしている。理美容にも社会資源を活用し、外食や送迎、通院の介護等、積極的な支援を行っている。		



外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切な医療を受けられる環境が提供されている。協力医療機関以外への受診希望については、情報提供や連携を行っており、家族会の中でも話し合いの機会を設けている。かかりつけ医への送迎は家族に対応していただくことを原則としているが、ホームとしても出来る限りの支援を行なっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	未だ、ターミナルへの取組み指針は出来ていないが、今後の検討課題として話し合いを進めている。	○	家族の意向も確認し、職員の教育も兼ねた課題として取り組んでもらいたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人記録の管理などは周知徹底されているが、利用者との関係性が長くなると言葉遣いが乱れ懸念もあるので、互いの業務を通じて見直しの機会を設けている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的なタイムスケジュールは設け、一般家庭のように、ごく自然に生活できるよう心掛けている。生活リズムを保ちながらも、細かな時間設定はなるべくせずに、個々人のそのときどきの思いを大切に過ごせるよう支援している。	○	利用者に対するサービス提供について、時間的な管理も大切であるが、『その人らしい生活』という視点で、生活の「質」が重要になるので、個人記録からの把握のほか、追加のアセスメントなどを望む。

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各人の嗜好や食材への対応を重視している。スタッフの手作りメニューや料理番組をヒントに、利用者と職員が協力して出来るバリエーションを増やしている。バイキング形式やおやつ作り、屋台形式による食事提供など工夫されており、楽しみの機会が多く作られている。誕生日には外食の機会を設けるなど、個別の対応もしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の入浴パターンを把握し、週に3回の入浴を確保している。夜間の入浴希望や日の繰り延べにも柔軟に対応しており、個々人が入浴を楽しめる環境が確保されている。入浴後の晩酌への対応しているケースもある。浴室には滑り止めや手摺など、ADL低下への配慮もされており、安全性には気を遣っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	作品作りやゲームなど利用者各々に合った方法で支援している。家事手伝いやトランプ遊び、ピアノの伴奏など、個別の役割や楽しみごとに対応している。編み物や絵手紙の通信教育を受講している利用者もいる。	○	今後、ベランダを活用して園芸療法を取り入れ、アクティビティを取り入れることを検討している。
25	61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出支援にも積極的に、デイスーツの車を活用している。玄関から外に出ること、屋外に出て外の空気に触れることの重要性を理解しており、散歩など利用者の希望には極力添えるよう努力している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯や危険防止に注意し、なるべく玄関の鍵を掛けないようにしている。玄関やエレベータには電子ロックを採用し、夜間の事故防止に努めている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
27	71	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の防災訓練を目標とし、市との連携や近隣との連携を模索している。	○	避難場所を示した防災マップの作成や、地域との連携が課題となっている。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取は記録し、把握している。本人の嗜好にあわせ、野菜ジュースや牛乳などの飲料物も取り入れている。疾病を持つ利用者には、油分、塩分、糖分、カロリーの摂取などにも気を付けている。調剤薬局の薬剤師の訪問時には服薬指導を受け、疾病に対しての食事と薬の効能・服薬方法の質問もして、安全な服薬支援を心がけている。	○	今後も、薬剤知識の向上に努めてもらいたい。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの仕様は、3階ではコタツの設置、2階では和風のたたみ敷きになっている。和室は、開口部の大きく明るい(会議の場としても活用される)。熱帯魚の水槽なども設置し、生活感を大切にしている。家族の訪問時に見て頂けるよう、玄関ホールには通信やお知らせ、案内などを置いている。壁には利用者の日常生活や外出時の(表情豊かな)写真が多く掲示され、会話のきっかけになっている。	○	昼食時間やお昼寝の時間帯など、テレビをつけない時間帯をときどき設けることも検討している。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的には個人の馴染みの品物などの持ち込みは自由。各部屋のレイアウトやベッドの設置なども利用者の自由である。必需品は家族と連絡をとりあって購入してもらっている。		

※  は、重点項目。